

道教委では、令和7年12月に情報セキュリティポリシーの改正を行い、それに合わせて「基本的なルールや必要な対応、起こりうるトラブルと予防策」などを整理した情報資産に関するガイドブックを作成しました。道立学校では本ガイドブックに基づいて適切に情報資産を取り扱うようお願いします。

「情報資産に関するガイドブック」発刊！

近年、個人情報の流出等の事故が増加していることを受けて、道立学校職員が情報資産を適切に管理できるよう、情報資産に関するガイドブックを作成しました。今回の通信ではガイドブックで特に抑えておくべきポイントを紹介します。詳細は、必ずガイドブックをご確認ください。



○禁止事項

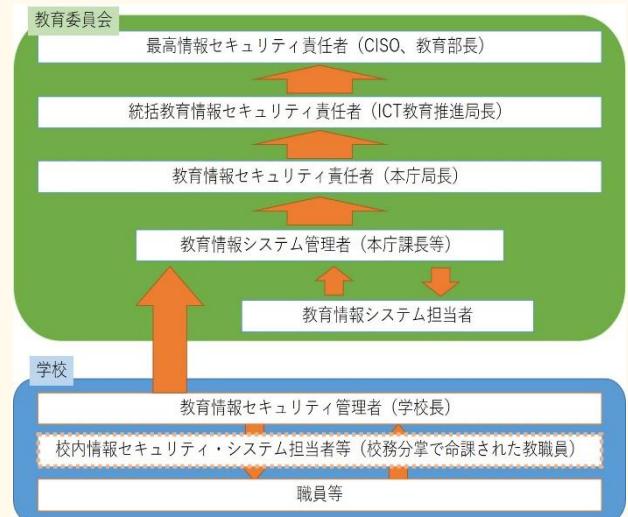
- ・重要性分類Ⅰ・Ⅱの情報を、パブリッククラウド上で取り扱うこと
- ・支給以外の“端末及び外部記録媒体等”を利用すること
- ・支給端末等を許可なく持ち出さないこと
- ・業務目的以外で端末を使用、情報資産を利用、ウェブを閲覧すること
- ・外部のソフトウェアを無断でインストールすること
- ・私的に契約したクラウドサービスやアカウントを利用すること
- ・ソーシャルメディアサービスに業務上知り得た情報を公開すること

重要性分類Ⅰ・Ⅱの情報は必ず、Sドライブか校務支援システムで管理してください

本通信では、おおまかな禁止事項を掲載しています。ガイドブックでは、詳細を記載していますので、ガイドブックを確認の上、適切に情報資産を管理願います。

○情報セキュリティインシデント発生時の対応

- ・インシデント発生時はネットワークの一時遮断など必要な措置を講じた上で、右図のフローを参考に報告様式に則って、以下の内容を報告してください。
- ①障害及び事故の区分（コンピュータウイルス感染 端末や外部記録媒体の紛失等、情報システムへの不正アクセス、その他（具体を記載すること））
- ②発見した日時（「発生した」日時も明らかにする必要がある場合が多いことから要確認）
- ③情報システム名
- ④原因（侵害等の発生事実は確認できるが原因の特定に至っていない場合は、不明（調査中）とすること）
- ⑤インシデント発生後に行った対応（システムの停止、ネットワークの一時遮断等）



※参考：令和8年（2026年）1月23日付け教ICT第559号「道立学校における情報資産の管理について」（道立学校向け通知）

LDX成果報告会の様子（数学の授業）

先号で紹介しました「リーディングDXスクール事業成果報告会」ですが、本号では、数学の授業の様子を紹介します。協議内容をホワイトボードアプリで共有し、学習課題に対する振り返りはスプレッドシートにまとめるなど、端末を効果的に活用しながら三角比についての理解を深めました。また、これまでの振り返りや授業資料を、生徒が自分のタイミングでいつでも見返すことができるため、個別最適な学びにつながる活用が進められていました。当日は大雪による交通障害の影響で欠席者が多い状況でしたが、オンラインと教室を併用し、授業は滞りなく進行していました。日常的にICTを活用しているからこそ実現できた授業であり、その重要性を改めて実感しました。



今号のコラム

サーバ廃止に伴うSドライブへの計画的な移行について

道立学校のファイルサーバ（以下、サーバという。）廃止に伴うSドライブへの移行については、本通信でもこれまで何度もお知らせしているところですが、多くの学校では来年度中にサーバがサポート切れとなります。そのため、計画的にSドライブへデータを移行するとともに、現在のネットワーク設定を事前に確認し、速やかにサーバを廃止できる状態を整えておきましょう。



なお、既にサーバを廃止した学校の中には、ネットワーク接続型ストレージ（以下、NASという。）を利用している例も見られます。しかし、表面で紹介している「情報資産に関するガイドブック」に記載しているとおり、NASは小型で持ち運びが容易なため盗難のリスクがあるほか、校内サーバと同様に、OSのアップデートやフォルダ・ユーザーの権限設定、突発的な不具合への対処など、日々の管理が必要となります。

その結果、担当教職員の負担増加や、異動後の管理体制の不安、セキュリティ上のリスクが生じる恐れがあります。Sドライブの設置目的を十分に理解した上で、各学校における情報資産の取扱いについて、改めて整理を進めてください。



「生成AIの利活用に関するプロジェクト」の取組

現在、当課では「生成AIの利活用に関するプロジェクト」を進めています。プロジェクトメンバーの先生方には、日々の実践の中で試行錯誤を重ねながら、活用事例の作成にご協力をいただいております。これらの実践の一部は、今年度末に事例集としてまとめ、全道への普及・展開を図る予定です。本号では、生成AIを活用する際の考え方や使い方を指導した実践の一部を紹介します。

概要

生成AIを活用する際の基本的な考え方や使い方を体験的に理解し、生成AIを自らの思考を支え、広げるためのツールとして適切に活用できるようにする。

【具体的な取組内容】

生成AIに小説を作成させ、その生成結果を確認しながら、学習者自身が物語の設定や条件を検討する。検討した内容を生成AIに具体的に指示し、再度小説を作成させる活動を通して、指示の与え方によって生成結果が変化することを体験する。こうした体験を通じて、生成AIは「正しい答え」を得るために道具ではなく、自らの考えを整理・深化させるための学びの伴走者であることを理解する。

取組内容（生成AIの活用）

活用前
人の顔にはね、ビウメがいるの。かわいいビウメ、馬のようなビウメ。
そう言ったのは、まだ七歳のときだった。
母に髪をとかしてもらひながら、鏡に映る自分の顔をじっと見つめて、ぱつりとつぶやいたのだ。母は最初、何を言っているのか分からず、笑って「そうなの」と受け流した。けれど私は本気で、そこに小さな生き物がいるのを見ていた。……

○物語の設定項目
1. 「ビウメ」の定義
→守護靈的何か
2. 登場人物
→おまかせ
3. 場面設定
→高校生
4. ハッピーエンド or バッドエンド or その他
→メリーバッドエンド
5. 読者の想定
→昔からの親友と生き別れる感じ

活用後
人の顔にはね、ビウメがいるの。かわいいビウメ、馬のようなビウメ。
そう最初に言ったのは、幼いころの美緒だった。私たちは同じ団地に住む幼なじみで、幼稚園の帰り道にいつも手をつないで帰っていた。ある日、夕焼けに照らされた私の顔を見て、美緒はそう言った。
「ユウトのビウメはね、白くて、たてがみがふわふわしてるよ。きっと優しいからだと思う」……

事例集では、様々な教科等における活用内容をより具体的に記載するほか、取組の効果なども記載する予定です。



ICT活用ポータルサイト



チャットボット案内が利用できます！

ICT活用に向けた校内研修プラン



ICTに関する校内研修を企画・実施する際はこちらへ！

「みんなで研修」プログラム



短時間でICT活用を学べます！

校務DX化の促進に係る関連情報ページ



ICTを活用した校務の効率化についてはこちら！

